

HS ニュースレター

夏季号：特別イベント報告

東京運河めぐり：夏季特別イベント(幹事 飯窪光隆)

コペルニクスの転換を遂げる授業・講義の方法(宮尾尊弘)

感想文：東京運河めぐりに参加して(二木憲一、針谷博史、小出修)

東京運河めぐり：夏季特別イベント

ハートストック研究会の夏季イベントとして、8月16日(土)に東京運河めぐりツアーが13名の参加で実施されました。今回も昨年を引き続き二木さんの企画です。昨年の夏季イベントの参加者が5名でしたので、倍以上の参加があり大いに盛り上がりました。

今回のルートは、日本橋の棧橋から日本橋川～永代橋～清洲橋～小名木川～扇橋閘門をほぼ往復する約90分コースでした。東京の運河はこれらの川のほかに神田川や北十間川などがありますが、いずれも江戸時代から交易のために人工的に造られたものです。運河に架かる橋はどれも水面に近いところに設置されているため、船には屋根や幌がありません。手を伸ばせば触れるほどの低さです。

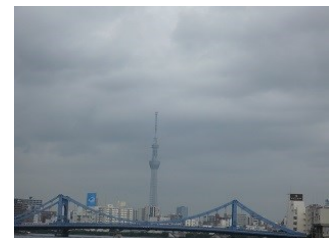
今回のメインスポットは清洲橋越しに見える東京スカイツリーと小名木川の東西のゼロメートル地帯を往来するのに必要不可欠な扇橋閘門の二ヶ所です。

一つ目のスカイツリーは言わずと知れ

た東京の新名所、それと清洲橋の調和が何とも言えない光景でした。因みに清洲橋は関東大震災の復興事業として永代橋と共に計画された橋で、当時世界最美の橋といわれたドイツのケルン市にあったヒルデnbrルグ橋の大吊り橋をモデルにしています。

二つ目の扇橋閘門は、小名木川の東西の水位差を吸収し、船の通行を可能にするための二重の水門からなる施設です。小名木川は江戸時代初期に行徳から塩や野菜を江戸に運ぶために造られた人工の川で、もともと水位差はなかったのですが、地下水のくみ上げにより江東区東部が地盤沈下してしまったために、その対策として造られた施設なのです。水位が約2.4m上がったりがったりして船の往来ができるようになりますが、その調整に要する時間が意外と短くて驚くほどでした。

運河めぐりの後は、日本橋の稲田屋で美味しい冷酒「稲田姫」と蕎麦をいただき、お開きとなりました。めったに見られない東京の運河からの光景、一度は乗船してみる価値はあると思います。(幹事：飯窪)



東京スカイツリーや扇橋閘門が見ものの東京運河めぐりツアーに13名が参加し、大いに盛り上がる。

ハートストック研究会とは

「ハートストック研究会」は、モノのストックだけでなくハート(心)のストックを豊かにするにはどうしたらいいかを追求する人たちの集まりで、誰でも入会できます。東京や地方さらには世界各国の生活や仕事の問題を、土地や住宅といったモノのストックのあり方から、人の考え方や気持ちといったハートのストックのあり方まで議論して自らの心を豊かにすることを目的としています。

コペルニクスの転換を遂げる授業・講義の方法

この春から夏にかけて、例年通りロスの大学で教えました。今年特に印象深かったのは、世界的に教育のあり方が根本的に変わりつつあるということです。

今や学ぶ側が受動的にただ教室で講義を聴いて学ぶという発想は崩壊して、もっと主体的に学びたいときに学ぶべきものを選ぶ時代になっています。そのため授業はビデオでウェブにアップし、教室では討論中心の進め方が主流になってきています。

私も入門経済学やアジアの経済のコースを教える際に、予め講義の要旨を5～6分でまとめたビデオを作ってYouTubeにアップしています。クラスではそれをもとに質疑応答や討論を実施して効果を上げています。以下がその例です。

日本語：http://youtu.be/ob40UeCon_k

英語：<http://youtu.be/m63Noxrti3M>

HS研究会でも、講師の講義ビデオを予めウェブにアップし、皆がそれを見た上で、定例会は討論の場として活用したらどうでしょうか(宮尾)。

感想文：東京運河めぐりに参加して

日本橋川の「蓋」はいつとれるのか 二木憲一

江東区の水辺に親む会というNPOがあり、その主催で船に乗ったのが10年くらい前でした。今回も同じ場所から乗船したのですが、ツアーをやっている会社がいくつかあるようで、たくさんの人が橋詰（橋詰の広場は江戸のなごりなのでしょう）にいました。ずいぶんとウォーターフロントが見直されていると思いました。二度目のオリンピックも若干影響しているのかもしれませんが。

扇橋閘門は楽しいですね。パナマ運河と同じ方式で、あっという間に水位が上がりがり下がりがりするのには驚きます。日本橋川の「蓋」となっている高速道路の撤去はいつになるのでしょうか。ソウルでは清溪川の上の高祿道路撤去が李明博前大統領（その前はソウル市長、建設会社社長）のリーダーシップで実現したので、日本からは、一時清溪川詣でが盛んでした。

日本橋の三越、西川、国分、栄太郎の旦那衆がまだ頑張っているの、川筋の整備とともに、「蓋」も何とかしてほしいと思います。

なお、渋谷駅周辺の再開発に伴い、東横線が道路をふさいでいた部分が解体され、空が戻っています。

新たな東京リバーシティ構想を 小出 修

日本橋棧橋から扇橋閘門をほぼ往復する約100分の夏季イベントに参加しました。

小名木川の途中で、扇橋閘門を通過し、パナマ運河のミニ版と言われる船のエレベーターを実体験。落差は2メートル以上あり、水の出し入れで昇降する速度が速いのに驚きました。

荒川と隅田川に囲まれた江東デルタ地帯はゼロメートル地帯であるため、この間の運河の水位を両方の川よりも下げるためです。

ここでは、土木学会の小委員会として、建設省河川局もアドバイザーに加わり、地盤の嵩上げなど「水の都」としての再生をめざした「東京リバーシティ構想」を提起しました。

時は移り、木密地域不燃化10年プロジェクトの今日、新たな視点で「東京リバーシティ構想」の花を咲かせたいものです。

楽しんだ三度目の日本橋川ツアー 針谷博史

三度目の日本橋川ツアーは、懇親会も含め楽しい場でした。

景観とかバラエティーの面では神田川に引けをとりますが、亀島川の掘割的な雰囲気は興味深いものでした。

6月には天王洲アイル発のツアーに参加したのですが、これも隅田川河口の情景が楽しめました。水質も改善し、親水の機会が増えているのは結構なことです。

編集後記

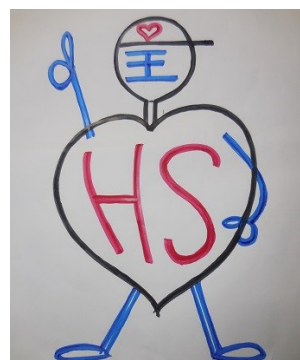
夏といえば、何といても甲子園の高校野球。今年も優勝候補といわれたチームが初戦で敗退したり、例年はそれほど強くない地域の高校が軒並み躍進したり、本当に高校野球はどうなるか分からない面白さがあります。若い人にとっては、人生というのは思ったようにはいかないという教訓を実感する機会ともいえるでしょう。

わが「ハートストックン」も、甲子園で審判役に忙しいようです。この審判の責任は重大で、一つ一つの判断が選手やチームの運命を大きく左右する可能性があります。

経済社会の「審判役」をもって任じるわれわれハートストック研究会も、また秋から気合を入れて本格的な活動を再開したいと思います。

それでは、次回の9月定例会でお会いしましょう。（宮尾）

HS研キャラクター・ハートストックン



HS ニュースレター

年3回発行
ハートストック研究会
発行人・宮尾尊弘

住宅や土地といったモノのストックだけでなく、人の考え方や気持ちといったハート（心）のストックを豊かにするための研究会のブログ：
<http://hstock.blog90.fc2.com/>

ハートストック研究会
2014年度事務局
幹事：飯窪光隆
会計：田淵千代子
顧問：二木憲一